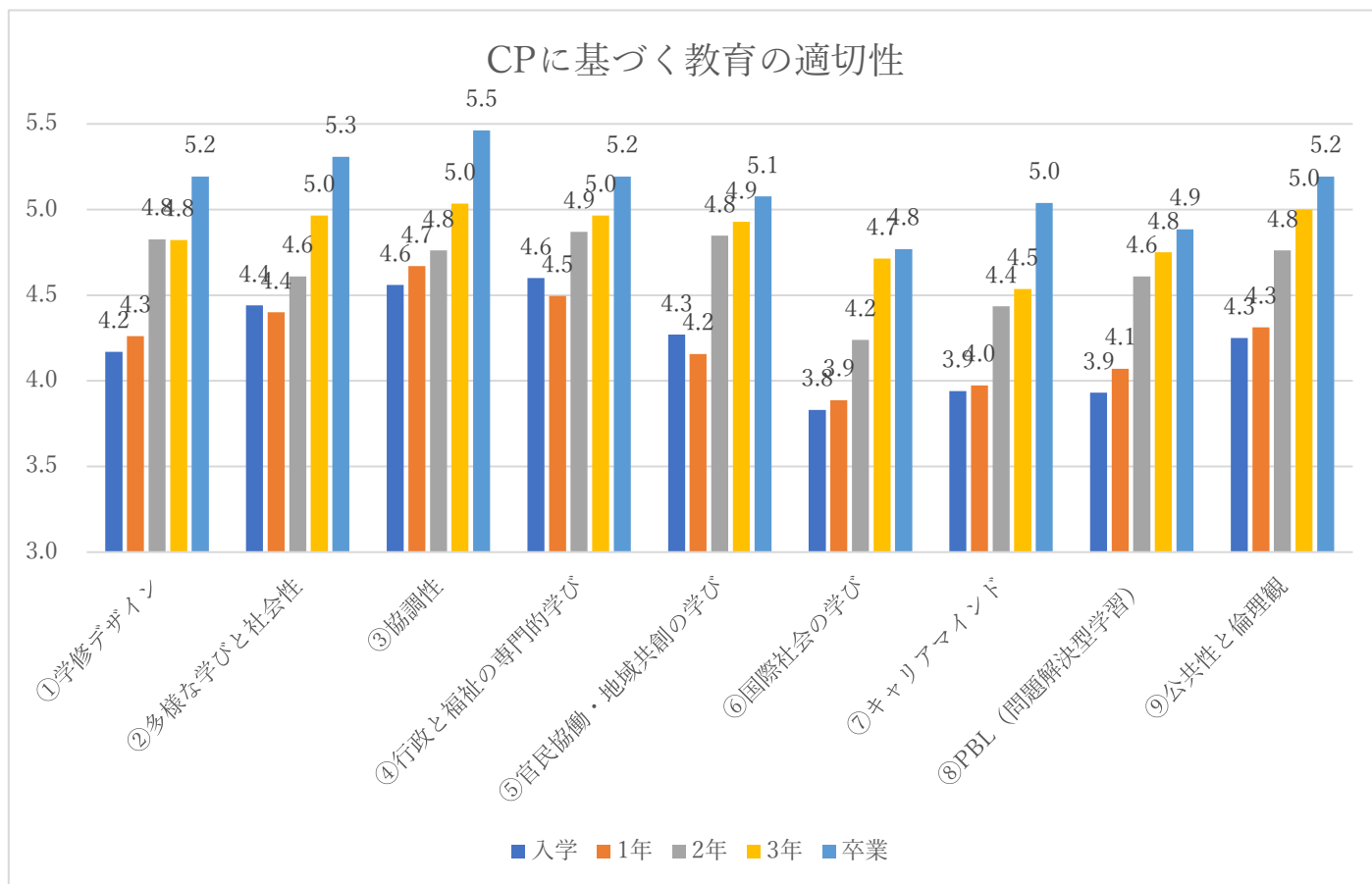


2023 年度 教育課程編成・実施の方針(CP)に照らした教育の取組の適切性に関する検証

総合福祉学部 福祉行政学科

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢ふり返り（学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針）」のデータを活用して学科 CP を検証した。各学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記 URL）参照。<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dswa.html>

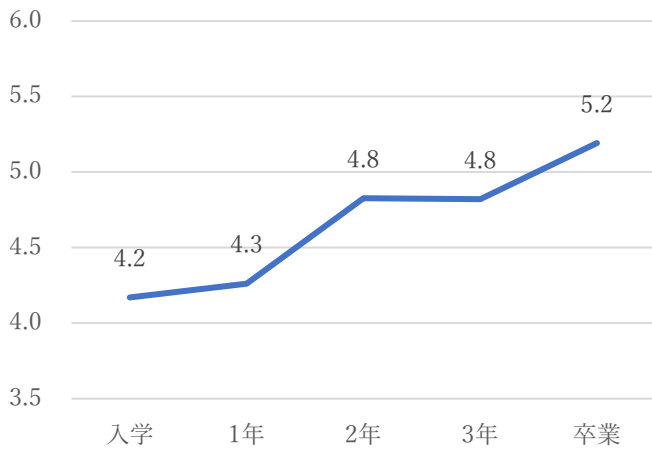
福祉行政学科では、学科カリキュラム・ポリシーに基づき「学びの姿勢ふり返り」として 9 項目を 6 件法によって調査し、それらを 1～6 点に換算して平均値を算出した。学科 CP に謳う①目標に応じた学修デザインに基づく総合的な学び、②多様な学びと社会性、③協調性、④行政と福祉の専門的学び、⑤官民協働・地域共創の学び、⑥国際社会の学び、⑦キャリアマインド、⑧PBL（問題解決型学習）、⑨公共性と倫理観、の 9 つの教育課程の要諦を学生が意識的に学修しているかを調査し、その浸透度合いを測定した。「教育の取り組みの適切性」を測るため、23 年度在籍全学生を母体とし、それぞれの「入学時」「一年終了時」「二年終了時」「三年終了時」「卒業時」に別けて集計した。そのためそれぞれの回答人数は 100 名、115 名、46 名、28 名、26 名となっている。



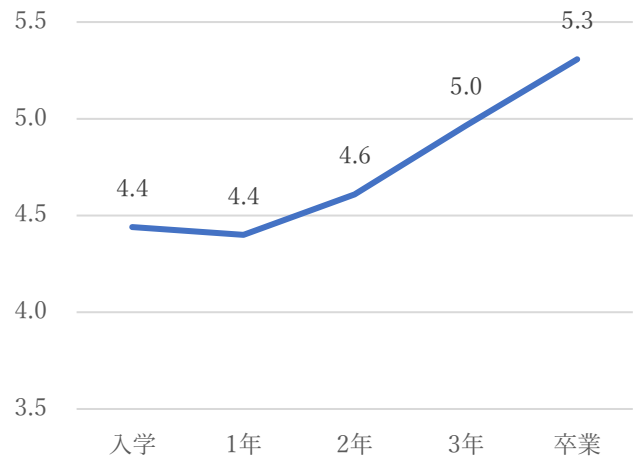
これを見ると、項目別のばらつきはあるが、年次が進むごとに学科カリキュラムが学生に意識化されていることがわかる。この年度は、まだコロナで地域での PBL 展開や海外での学習機会などが制限されていたため、「国際社会の学び」や「PBL」などの意識が初年次は低くなっている。しかし、キャリアを意識し始める 3 年時以降は意欲が高まり、学科カリキュラムの方針が意識化されて学習している様うかがえた。

次に、項目ごとの年次比較を掲げる。但し上記のようにこの母数には「4 年生の 1,2,3 年時」「3 年生の 1,2 年時」「2 年生の 1 年時」を含めていることを重ねて補足しておく。

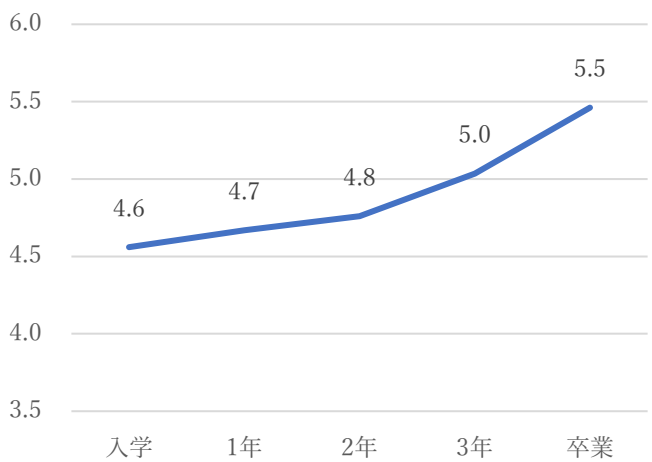
①学修デザイン



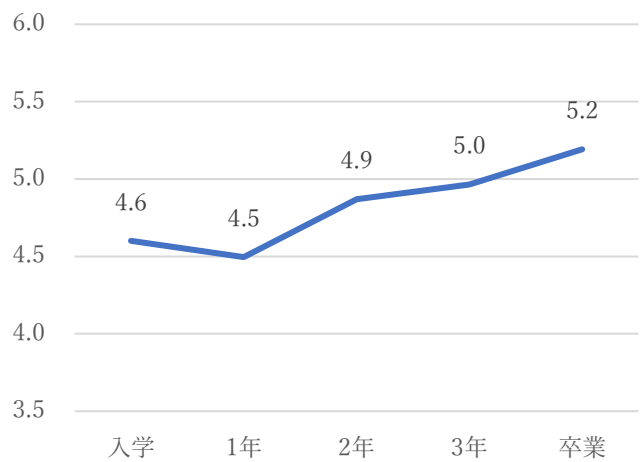
②多様な学びと社会性



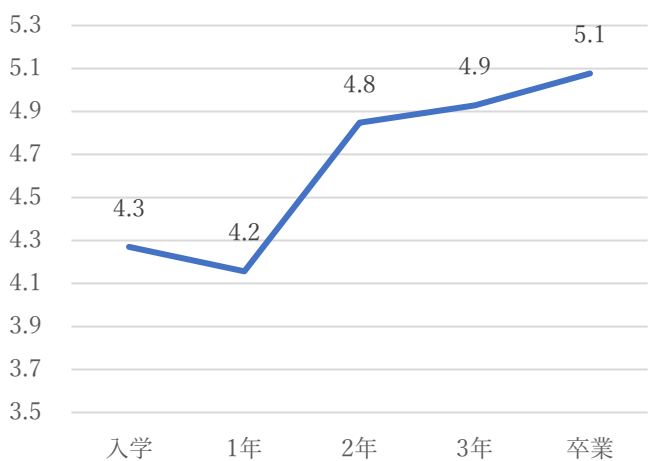
③協調性



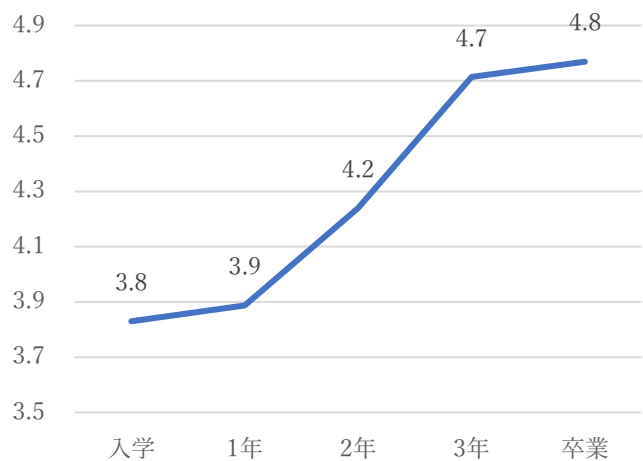
④行政と福祉の専門的学び



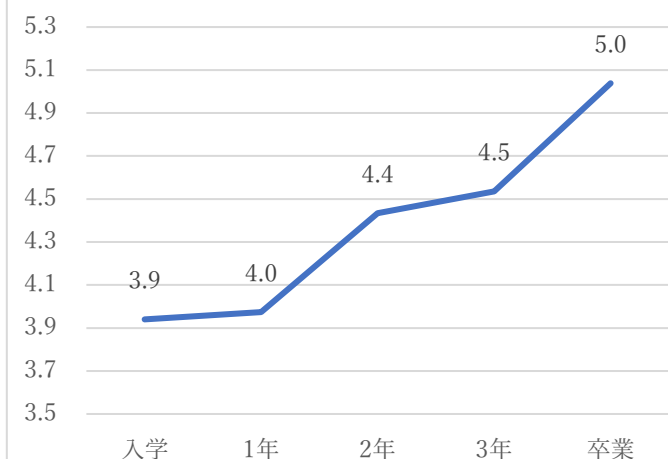
⑤官民協働・地域共創



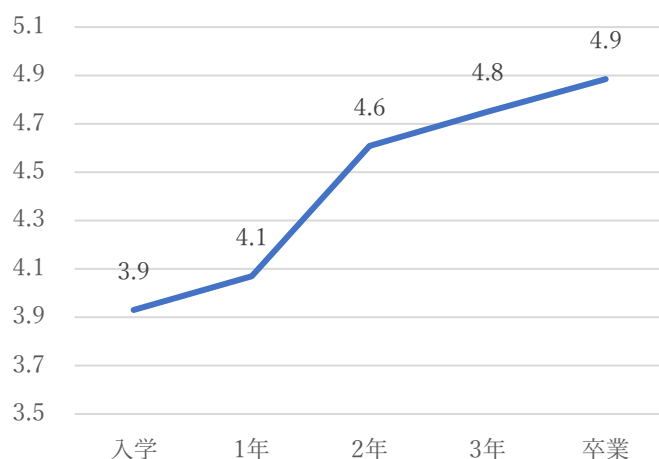
⑥国際社会の学び



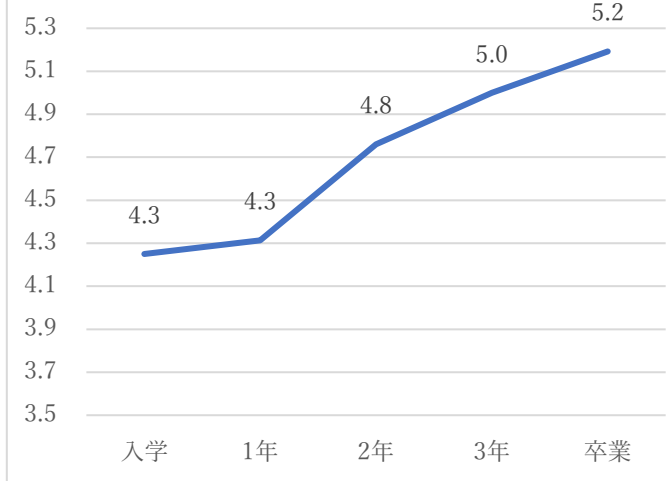
⑦キャリアマインド



⑧PBL (問題解決型学習)



⑨公共性と倫理観



これらを項目別にみていくと、入学時から一年終了時の間に CP に基づくカリキュラムの意識化があまり進んでいないことがわかる。しかしこれは、一年生時はまだ社会やキャリアとの関係性や自分の将来やキャリアへの意識が低いことが関係していると思われる。また一年時は基盤教育科目が主で、学科の専門科目は多く配当されていないことから、特に「官民協働・地域共創」「行政と福祉の専門的学び」に影響が出ていると思われる。

しかしこれは大学設置基準上やむを得ないし、2年以降にそれら項目が上昇していることから初年次教育に大きな問題があるとは考えにくい。これらを踏まえた上で、今後も4年間のカリキュラム、特に初年次教育を継続して検討していきたい。